

アジアにおける心理職の 国家資格化の現状と課題

●企画者・司会者：野島一彦（跡見学園女子大学）

- 1) 韓国における現状と課題：金 奎卓
(大邱校洞初等学校)
- 2) 中国における現状と課題：張 磊
(株式会社 アドバンテッジリスクマネジメント)
- 3) 台湾における現状と課題：廣 梅芳
(コーン・フェリー・インターナショナル株式会社)

企画のねらい

心の問題の複雑化・多様化にともない、専門的な心理的サービスが求められるようになってきている。そのためとりわけ欧米では早くから、心理職の国家資格化が進められてきている。私たちはその状況について紹介されたものに触れる機会はある。しかし、アジアにおける状況について知る機会はあまりない。そこで本シンポジウムでは、アジアのなかでも特に日本とは近くて密接な関係にある韓国、中国、台湾における心理職の国家資格化の現状と課題について焦点をあてる。

話していただくこと

- ①自国の国家資格がいつできたのか
- ②現在何人くらいが取得しているのか
- ③どのような業務内容なのか
- ④学歴は学部卒なのか修士課程修了なのか
- ⑤資格取得者の雇用状況はどうなってるか
- ⑥平均的年収はどれくらいあるのか

シンポの意義

心理職の国家資格化の先輩であるそれらの国々の現状と課題を私たちが知ることは、わが国における国家資格化のために有益な示唆が得られることになると思われる。

使用言語

このたびの話題提供者は3名とも日本の大学院で臨床心理学を学んでおり、日本語はきわめて堪能である。それで、通訳なしで日本語での話題提供、日本語での質疑応答をしていただくことになっている。